

## JOMF 派遣医師便り (2019.4)

### ◆マニラ◆

## 日本の70倍、フィリピンでは麻疹流行は依然として収まらず

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

フィリピンでも日本と同様に麻疹が流行しています。先月号でフィリピンでの麻疹流行状況を書きましたがその後も収まる傾向がありません。

先月号で以下の内容を記しました。

---

フィリピン厚生省によれば2019年1月1日から2月9日までの40日間に4,302人が麻疹を発症し、70人が死亡（マニラ首都圏では1296人発症、18人死亡）。

---

ところが1か月余り経った3月下旬になっても麻疹患者数が更に増加しています。

フィリピン厚生省によれば2019年1月1日から3月21日までの間に2万3,563人の麻疹患者が報告されています（内338人が死亡、死者の多くは乳幼児）。

一方日本では2019年1月1日から2019年3月27までの約3か月間に342人の麻疹患者が報告されています（厚生労働省）。

フィリピンではなんと日本の約70倍の患者数が報告されているのです。

麻疹は空気感染、飛沫感染、接触感染など様々な感染経路を持つウイルス感染症で、感染力が極めて強く、麻疹に対する免疫がない人が感染すると90%以上が発症すると言われていています。患者の咳やくしゃみを直接浴びた場合だけでなく、広い体育館のような場所であっても、その中に麻疹患者がいると、そこにいる多くの人が麻疹ウイルスを吸い込んでしまうほどの強い感染力を持っていると言われていています。

（感染力の強さを科学的に示す「基本再生産数」という概念（数）があります。全員が麻疹に対する免疫をもっていないと仮定して、1人の麻疹患者が何人の人に感染させてしまうかを表しています。麻疹の基本再生産数は12~18と言われており、風疹が5~7、おたふくかぜが4~7、SARSが4前後ですので、麻疹の感染力は、他の疾患に比べても非常に強いことがわかります。（参考：「学校における麻しん対策ガイドライン」、国立感染症研究所感染症情報センター、文部科学省、厚生労働省）

麻疹の特徴：

- ・潜伏期間は10日前後
- ・発熱・咳・鼻汁などの風邪のような症状（カタル期）の後に39度以上の高熱と発疹
- ・カタル期に最も感染力が強い（発疹出現以前から他者へ感染させる）
- ・麻疹を発症すると先進国でも1,000人に1人の割合で命を落とす

- ・合併症として肺炎、中耳炎、脳炎、心筋炎などを起こす。(さらに麻疹罹患後7年  
前後を経て発症する亜急性硬化性全脳炎 SSPE などの重篤な合併症もある)
- ・唯一の予防手段は“ワクチン接種”

フィリピンに在住している方はもちろん、日本から来比される皆さんも的確なワクチン接種を行い、適切な行動をとっていただくことが大切です。

麻疹のように空気感染や飛沫感染する感染症は患者さん一人のみを治療しても感染拡大は防げません。一国のみの政策によっても改善は困難です。感染症を封じ込めるためには世界中の国々が協力していくことが必要不可欠です。 2019年4月10日記